

# インド金属労働組合運動の現状と課題

(注1) インドでは、経済活動分野をOrganised Sector (フォーマルセクター) とそれ以外 (インフォーマルセクター) に2分している。Organised Sectorの労働者とは、正規労働者で労働契約に基づいて雇用されている者を指す。

(注2) 2002年の数値が労働省が確認したものは最新。

(注3) 1989年の全組織労働者数は、1227万人。

(注4) IMF規約では、インドは第5グループに属し、1人当たり加盟費は、1.10スイス・フランの5パーセントであるが、そのような条件下でも加盟組合員数を1桁以上減らして登録している。ちなみに、2005年のIMF規約改正で投票権は、会費納入人員に応じて与えられることになった。

## はじめに

本誌286号で「パキスタン金属労働組合運動近況」について報告したが、本号では、近年BRICSの一角を占め、経済成長が著しいインドの現状と問題点を見てみたい。

## 労働市場の特性

インド財務省による「経済調査2007-2008」によると、2004-2005年の雇用者数は、3億8千500万人である。内、正規雇用者数(※注1)は2千650万人で、7パーセントに満たない。即ち、93パーセントが非正規雇用労働者ということになる。また、正規雇用者中、官公部門がほぼ7割を占める。

## ナショナルセンターと組織人員

インドの労働組合運動の歴史は古く、100年を超える。2008年時点で、インド労働省認可の中央労働組合組織(ナショナルセンター)は、11を数え、20を優に越

える未認可全国組織加盟の120万人を加えると2002年時点での全組織労働者数は、労働省調査(※注2)では2千460万人となっている。組織率は、単純に計算して6・4パーセント。

この調査によると最大組織は、インド労働者組合(BMS)で組織人員は、621万人、次いでインド全国労働組合会議(INTUC)の389万人、インド労働者会議(HMS)334万人、インド労働組合センター(CITU)322万人、全インド労働組合会議(AITUC)268万人などとなっている。2002年の総組合員数は、前回調査時の1989年のそれ(※注3)に比べ、約2倍になっており、特に非正規労働者の増加が著しい。直近の情報では、例えばINTUCはその組織人員を803万人としており、HMSも450万人としている。



● IMF (国際金属労連) 書記次長

鎌田 普 かまだ・ひろし

72年IMF-JCに入局。調査局で国際金属労組の賃金・労働条件比較を担当。75年IMF本部へ派遣。特別企画部長をはじめ、自動車、航空宇宙、電機電子、事務技術職など各種産業担当部長を歴任。95年IMFシニア・エグゼクティブ・オフィサー(SEO)に就任し、地域組織機構、地域事務所、財政、人事、総務を担当。05年6月にIMF書記次長に就任(現)。

## 古くて新しい問題

インドの労働組合が抱える問題は、不変のように思われる。労働戦線の分裂(全国、地域、社会階層)、組合間闘争、ナショナルセンターと政党間の緊密な結びつき、ナショナルセンターによる産業別組合の支配、個人的リーダーシップへの長期依存、外部指導者への依存、脆弱な財政などである。

加えて、インド経済は、近年急速にグローバル化し、自動車産業をはじめ、民間部門の成長が目覚ましい。しかしながら、インド労働組合運動は、長期にわたり、官公部門に依存してきた経緯から、民間部門の製造業、サービス業での組織化が立ち遅れている。また、企業段階で組織化がなされているにもかかわらず、上に述べたような組合自体が抱え

## 《IMFインド加盟組織と組合員数》

| 組 織 名   | 組織人員数      |         |
|---|------------|---------|
|   | IMF会費納入ベース | 組織発表ベース |
| Indian National Metalworkers' Federation (INTUC)        | 22.700     | 422.552 |
| Steel, Metal & Engineering Workers' Federation of India | 22.720     | 200.000 |
| Indian National Mineworkers' Federation                 | 10.654     | 10.654  |
| Working People Trade Union Council                      | 5.680      | 5.680   |
| Simpson Group Companies Workers' & Staff Union          | 2.439      | 2.439   |
| SKF Bearing India Employees' Union                      | 1.084      | 1.105   |
| Atlas Copco Employees' Federation                       | 426        | 426     |
| Philips & B. C. Components Employees' Union Pune        | 1.137      | 1.137   |
| Sandvik Asia Employees Union                            | 380        | 380     |
| 合 計   | 69.193     | 641.325 |

る諸々の問題と経営側の圧力により、民間単組が産業別組織への加盟を躊躇しているケースが多く見られる。

正規雇用労働者数は、1997年に2千820万人を数えたのをピークにその後減少に転じ、2005年には、2千650万人となっている。一方、全雇用者数は年々増加している。このことは、非正規労働者が絶対的にも比較的にも増加したことを意味している。したがって、93%を占める非正規雇用労働者の組織化は、緊急の課題であろう。

## IMF加盟組合

2008年現在のIMFインド加盟組合は、計9組合、64万人(表を参照)。全国産業別組合は、3組織で、インド全国金属労連(INMF)が42万3千人と最大。次いでインド鉄鋼・金属・機会労連(SMEFI)が20万人で続き、インド全国鉱山労連が9千人(金属鉱山のみ)となっている。勤労者労働組合協議会(WPTUC)は、チェンナイの地方組織、その他は全て多国籍企業の企業別組合である。このIMF加盟組織の構図は、長期間変わっていない。インド全国金属労連とインド全国鉱山労連がナショナルセンターのINTUCに加盟。SMEFIは、HMS加盟である。金属産業内でのこう着状態を打破するため、近年INMFとSMEFIの間で組織間協力の推進の可能性が模索されたが、具体的な進展を見るにはいたっていない。また、

インド・ハルヤナ州フアリタバッドで開催の「第8回SMEFI全国大会」開会式(08年5月3日)  
※右から5番目が筆者。



過去幾度かSMEFI独自に、また加盟組合を通じ、他のナショナルセンター及び傘下の金属労連組合と接触を持ったが、協力関係、加盟問題などについての具体的な進展はない。

組合員数をSMEFI会費納入ベース(※注4)で見た場合、組合員数は激減する。INMFが約2万8千、SMEFIが2万3千となっており、産業別組織が抱える財政問題の深刻さが伺える。

## IMFインド委員会(IMF-IC)

IMFインド委員会は、インドにおける

IMF加盟組合の活動を調整し、加盟組合間の連帯を促進するため結成され、2000年代に入り、年2回の定期的な会合を持つようになった。しかしながら、IMF-ICが独自に活動を展開し、具体的な成果を上げているとは言い難い状況である。また、IMF加盟組織は、独自に、また組織間で協力して未組織労働者の組織化を推進し、IMF未加盟組織の加盟を促進するという課題も担っている。

このような状況下、IMF-IC内に作業委員会が設けられ、IC強化に向けた話し合いが本年1月にスタートした。IMF加盟組織の強化、組織化の推進、インドにおける金属労連組合運動の統一といった非常に困難かつ遠大な課題への挑戦である。

## むすび

グローバル化によって経済、社会が大きく変貌を遂げる中、インドの労働組合運動は、それ自体が抱えてきた問題を今もって引きずっているかのように見受けられる。言うまでもなくインドは南アジアの盟主であり、鏡である。インドにおいてIMF-IC加盟組合が旧習を打破し、金属労連組合運動強化と結集に成功すれば、同根の問題を抱えるパキスタン、バングラディシュ、スリランカ、ネパールにおける金属労連組合運動にも大きな変化の転機を与えよう。また、そのことはとりもなおさずアジアにおける金属労連組合の強化に直結する。

(08年7月31日、Carouge(ご記))